

連絡先: 〒700-0905岡山県岡山市北区春日町5 - 6 岡山県労働組合会議内 岡山県労災職業病・過労死連絡センター
086-221-0133 E-mail:okakenro@mx1.tiki.ne.jp URL: <http://ww1.tiki.ne.jp/~okakenro/karoshi.htm>

講演: 夜勤は、生体リズムに反し、健康、安全、社会生活を犠牲に ミニ・シンポ: 医療・交通・運輸などの実態を告発 - 講演・ミニシンポ・分科会に - 中四国各地から178人が学ぶ

市場原理の規制緩和を阻止し、いのちと健康守ろう 実行委員長挨拶 安倍政権の暴走ストップ、地方センター確立を 全国センターが挨拶

いのちと健康を守る第6回中四国セミナーは、6月21 - 22日の日程で岡山市岡山国際交流センターで開幕されました。21日の講演、ミニシンポ、7つの分科会には178人が参加しました。

開会では、現地実行委員長山本勝敏弁護士が「日本の大企業は海外進出して、低コストの製品を逆輸入し、規制緩和、市場原理で働くもののいのちと健康を破壊しようとしている。これに対するたたかいを強めよう」と挨拶。全国センター中林事務局次長は、「集団的自衛権容認、残業代ゼロをはじめ安倍政権が暴走しようとしているが、それに対する批判も大きく広がってきている。いのちと健康を守る運動をすすめていく。そのためには全県の地方センター結成をすすめている」と挨拶しました。



山本勝敏実行委員長



中林全国センター事務局次長

夜勤は生体リズムに反し、安全、健康、社会生活を破壊

労働科学研究所佐々木司氏が、講演—ミニシンポで医療、交通の実態を報告

続いて、労働科学研究所の佐々木司氏が「夜勤は有害『保護と規制は当たり前』を世論に」と題して講演。夜勤労働者は、約2割でその実態がよく知られていない。人間は、夜に睡眠するという生理的なリズムがありこれをかえる講演を聞く参加者と、ストレスが蓄積して、健康を乱す。夜勤は酒酔い状態の集中しがなく、安全性に大きな危険があり、頻発する夜間高速バス事故のようになる。夜光の青色光はがんの原因となり、デンマークでは看護師の乳がんが「労災」と認定されている。週末の連休も取れず、夜勤入りの前には遠くにも行けず、社会生活が崩れている。こうした実態を広く訴えることが必要だと強調しました。



講演を聞く参加者



ミニ・シンポでの発言



看護師の実態を報告

「子どもの病気でも休みがとれない」「点滴をしながらか、患者を看護」—看護労働

続いてのミニシンポでは、福田幸恵岡山医労連委員長が看護師の実態とたたかいを発言。厳しい夜勤に入る看護師が少ないために「自分が病気でも休めず、点滴を入れながら、患者を看護することもあった。子どもが急に病気になっても休みが取れないことがとてもつらかった」と実態を報告し、夜勤月8日以内を目指してきたたたかいの歴史と到達を発言しました。

その後、JRの実態を国労岡山地本片岡公夫書記長が報告。組合つぶしの攻撃で（裏面に続く）

(1面からの続き) 会社の利益第1の一方的な労働時間が押し付けられ、勤務間隔が4時間、1回の運転が30時間になるなどの実態となっていること、これへのたたかいが報告されました。

セミナーで学び、12時間夜勤をストップー広島医療生協労組

会場からは、広島医療生協労組から1昨年松山市のセミナーで講演した佐々木司先生に、12時間夜勤が使用者から提案されていることを質問して、「お話したように有害です」と言われ、それを力にストップしたと発言、満場の拍手が起きました



第1分科会

職場のストレス、メンタルヘルス対策を考える
講師: 林 秀樹医師、谷原弘之カウンセラー



第2分科会
学校にローアンの風を
講師: 村上剛志氏 (社会医学研究センター理事)



第3分科会
夜勤・交替制労働を考える
助言: 講演した佐々木司氏



第4分科会
有害物質、じん肺・アスベスト闘争の到達点と課題
報告: 大山泰弘氏 小林忠氏



第5分科会

基礎講座、安全衛生の基礎と委員会活動
講師: 中林正憲 全国センター事務局次長



第6分科会

ブラック企業と過労死、家族、支援のたたかい
講師: 清水善朗弁護士 (過労死弁護団)



第7分科会

腰痛などの予防対策
講師: 柚木伸也氏 (全労働岡山)



交流懇親会での各県の紹介

交流懇親会では、地酒を持ち寄り、各県の参加者を紹介して交流をしました。

